

『大阪港 150 年史』と夢洲のまちづくり

『大阪港 150 年史』は、大阪港の歴史や課題をさぐるうえで参考になる。いま話題の夢洲についても、埋め立ての歴史とまちづくりが概説されている。抜粋して紹介したい。

2014 年 10 月、大阪市は夢洲を国が進める IR を含む国際観光拠点とすべく検討するため、大阪府、関西経済 3 団体とともに「夢洲まちづくり構想検討会」を設立。その後、15 年 2 月に公表された「夢洲まちづくり構想（案）～中間とりまとめ」を、大阪府とともに策定する「大阪の成長戦略」（16 年 12 月版）に組み込んだ。この戦略では、大阪のシンボルとなる新たな国際観光拠点の形成が必要であるとし、大阪ベイエリアに位置する夢洲を最適地とした。この間、大阪市は 16 年 5 月に夢洲開発に参画意欲のある民間事業者を対象に「夢洲における国際観光拠点形成に向けたアイデア募集」を実施し、海外からの 4 件を含む 12 件のアイデアが寄せられた。同検討会はこのアイデアも参考にして 17 年 8 月、夢洲まちづくりの方向性を示す「夢洲まちづくり構想」をまとめた。

同構想では、すでに国際物流拠点として機能している夢洲東部は引き続き「物流ゾーン」「産業・物流ゾーン」とするが、夢洲中央部は「観光・産業ゾーン」と位置づけた。同ゾーンではエンターテインメント機能やレクリエーション機能を中心に先端技術等が体験できるなど、産業振興に資する機能も導入して新たに国際観光拠点の形成を図る。夢洲西部は廃棄物処分完了後「グリーンテラスゾーン」として緑あふれるオープンスペースや親水空間を形成することとした。港湾局は同構想を踏まえ、大阪港港湾計画を 19 年 3 月に改訂。国際コンテナ戦略港湾を引き続き推進することに加え、広大な用地や立地環境、景観等を活かし、大阪の経済成長を牽引する新たな国際観光拠点の形成を図ることとした。19 年 9 月には「夢洲まちづくり構想」に掲げる国際観光拠点の形成を進めるため、夢洲中央部の用途地域を準工業地域、工業地域から商業地域に変更し、あわせて特別用途地区（国際観光地区）に指定。域内道路を都市計画道路とした。この域内道路はリゾート地区にふさわしい道路形状とし、歩道には、水・みどりやオープンスペース等を配置し、イベント利用も想定した道路空間とすることをめざすこととした。

夢洲を魅力ある国際観光拠点とするには、核となる IR の成否が大きな鍵を握る。18 年 7 月に IR 整備法が成立。IR 推進局が 19 年 4 月にコンセプト募集(RFC)を実施し、19 年 12 月には事業者募集(RFP)を開始、誘致に向けた取組みを着実に進めている。「夢洲まちづくり構想」策定後、特に国際観光拠点の形成に向けた具体的なまちづくりを進めるために、経済界、府、市が「夢洲まちづくり基本方針」を 19 年 12 月に策定、方向性をまとめた。この方針に基づき、高規格ターミナルを核とした国際物流拠点の形成、世界に誇る魅力ある新たな国際観光拠点の形成を目標とし、時代の要請に的確に対応して世界中から人・モノ・投資を呼び込み、大阪、関西、ひいては西日本の経済成長を牽引していく地区として夢洲を発展させていく。

(2022 年 9 月 11 日)